

# 2019 年度 事業報告書

自 2019 年 4 月 1 日

至 2020 年 3 月 31 日

公益財団法人 全日本柔道連盟

# I 法人の概況

## 1. 沿革

|               |                   |
|---------------|-------------------|
| 創立            | 昭和 24 年 5 月 6 日   |
| 法人格取得         | 昭和 63 年 6 月 8 日   |
| 日本体育協会加盟      | 昭和 24 年 10 月 26 日 |
| 国際柔道連盟加盟      | 昭和 27 年 12 月 9 日  |
| アジア柔道連盟加盟     | 昭和 31 年 5 月 2 日   |
| 日本オリンピック委員会加盟 | 平成元年 8 月 7 日      |
| 公益財団法人へ移行     | 平成 24 年 4 月 1 日   |

## 2. 目的

この法人は、わが国における柔道競技界を統轄し代表する団体として、嘉納治五郎師範によって創設された柔道（以下、単に「柔道」という。）の普及および振興を図り、もって国民の心身の健全な発達に寄与することを目的とする。

## 3. 事業内容

- (1) 柔道に関する競技者および指導者の育成
- (2) 柔道に関する競技会および講習会の開催
- (3) 柔道用具の公認および検定
- (4) 柔道に関する国際交流および国際貢献
- (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

## 4. 会員の状況 (2020 年 3 月 31 日現在)

| 区分     | 令和元年度   | 平成 30 年度末 | 増減     |
|--------|---------|-----------|--------|
| チーム数   | 8,325   | 8,568     | -243   |
| 指導者・役員 | 21,654  | 29,451    | -7,797 |
| 社会人    | 25,853  | 18,773    | 7,080  |
| 大学生    | 11,227  | 12,045    | -818   |
| 高校生    | 20,232  | 21,638    | -1,406 |
| 中学生    | 29,149  | 30,997    | -1,848 |
| 小学生    | 33,730  | 34,863    | -1,133 |
| 未就学児   | 1,680   | 1,502     | 178    |
| 休会員    | 24      | 32        | -8     |
| 登録者計   | 143,549 | 149,301   | -5,752 |

## 5. 主たる事務所、従たる事務所の状況

主たる事務所 東京都文京区春日 1 丁目 16 番 30 号 講道館本館 5 階  
従たる事務所 無し

6. 役員等に関する事項（2020年3月31日現在）

| 役職            | 選出区分  | 氏名    | 常勤・非常勤の別 |
|---------------|-------|-------|----------|
| 代表理事(会長)      | 理事会推薦 | 山下 泰裕 | 非常勤      |
| 理事(副会長)       | 近畿    | 藤木 崇博 | 非常勤      |
| 理事(副会長)       | 理事会推薦 | 野瀬 清喜 | 非常勤      |
| 理事(副会長)※      | 理事会推薦 | 石井 淳子 | 非常勤      |
| 理事(副会長)※      | 理事会推薦 | 中村 真一 | 非常勤      |
| 業務執行理事(専務理事)※ | 理事会推薦 | 中里 壮也 | 常勤       |
| 理事(常務理事)※     | 理事会推薦 | 寺脇 一峰 | 非常勤      |
| 理事(常務理事)      | 東京    | 松井 勲  | 非常勤      |
| 理事(常務理事)      | 理事会推薦 | 西田 孝宏 | 非常勤      |
| 理事(常務理事)      | 理事会推薦 | 細川 伸二 | 非常勤      |
| 理事(常務理事)      | 理事会推薦 | 北田 典子 | 非常勤      |
| 理事(常務理事)      | 理事会推薦 | 金野 潤  | 非常勤      |
| 理事            | 北海道   | 平間 忠幸 | 非常勤      |
| 理事            | 東北    | 黒田 一彦 | 非常勤      |
| 理事            | 関東    | 中島 政司 | 非常勤      |
| 理事            | 北信越   | 木内 義雄 | 非常勤      |
| 理事            | 四国    | 河野 賢嗣 | 非常勤      |
| 理事            | 九州    | 久野 裕久 | 非常勤      |
| 理事            | 実柔連   | 岡泉 茂  | 非常勤      |
| 理事            | 学柔連   | 冲永 佳史 | 非常勤      |
| 理事            | 高体連   | 高澤 雅宏 | 非常勤      |
| 理事            | 中体連   | 高橋 健司 | 非常勤      |
| 理事※           | 理事会推薦 | 火箱 芳文 | 非常勤      |
| 理事※           | 理事会推薦 | 大作 晃弘 | 非常勤      |
| 理事            | 理事会推薦 | 大迫 明伸 | 非常勤      |
| 理事※           | 理事会推薦 | 小野山修平 | 非常勤      |
| 理事            | 理事会推薦 | 田辺 陽子 | 非常勤      |
| 理事※           | 理事会推薦 | 天野 玲子 | 非常勤      |
| 監事            |       | 金子 正志 | 非常勤      |
| 監事            |       | 根本 博史 | 非常勤      |
| 監事            |       | 田島 優子 | 非常勤      |

※は、スポーツ団体ガバナンスコードで定義する外部理事を指す

7. 職員に関する事項 (2020年3月31日現在)

| 職員数    |    | 前期末比増減 | 平均年齢  | 平均勤続年数 |
|--------|----|--------|-------|--------|
| 男性     | 22 | ±0     | 45.0歳 | 6.9年   |
| 女性     | 20 | +1     | 39.6歳 | 5.3年   |
| 合計又は平均 | 42 | +1     | 42.4歳 | 6.2年   |

8. 許認可に関する事項

変更なし

## Ⅱ 事業の状況

### 1. 概要

- (1) 2020年東京オリンピック(3月24日に延期が決定)を直前に控え、「変えるべきところは変え、変えてはならないことは守り抜く」という基本方針の基に、「競技面の強化」と柔道の創始者である嘉納治五郎師範が生涯取り組まれた「人づくり面での強化」の2つの課題の充実化を進め、子供たちが憧れる柔道界を目指した各種活動を行った。
- (2) 財政面では、登録者数が前年度対比で5,752名の減少となり会費収入は減少した。一方で、補助金、協賛金収入は安定的に維持でき、全般に経費節減に努めたが、2019世界柔道選手権東京大会の開催があり、当期経常増減額は約1億1千万円のマイナス決算となった。
- (3) 選手強化事業においては、8月に東京・日本武道館で開催された世界選手権大会を最大目標とし、個人戦では金メダル4個を含む15個のメダルを獲得した。東京オリンピックの正式種目となった男女混合団体戦においても3年連続となる金メダルを獲得した。  
また、オリンピックの代表選手は、従来は開催年の4月に決定していたが、2020東京大会については内定制度を導入し、2020年2月までの大会で14階級中13階級の代表を内定した。
- (4) 普及事業においては、各種少年柔道教室の開催をはじめ、中学生、高校生の登録者数増加に向けた集中的な普及事業を開始した。また、柔道MINDの推進や指導者研修会の充実、重大事故防止の徹底等、柔道普及のための事業にも精力的に取り組んだ。
- (5) 競技会の開催事業においては、国際柔道連盟主催の3つの国際大会を運営し、15の国内大会を主催し成功に導いた。
- (6) 2020年1月からは新型コロナウイルスへの感染が世界的に拡大し、3月に開催予定であった3つの主催大会を中止とし、3月に開催予定であった全国代表者会議は延期として、理事会は書面によるみなし決議とすることとした。また、新型コロナウイルス感染症対策委員会を設置して、今後の大会の開催や練習の指針等を検討し、速やかに周知することとした。

### 2. 会議の開催

#### (1) 評議員会

##### ①第1回(定時)

日 時 2019年6月21日(金) 10:00~12:00

場 所 学士会館 320号室

決議事項 第1号議案 第7期決算報告書の承認

第2号議案 理事の選任

第3号議案 監事の選任

##### ②第2回(臨時)

日 時 2019年12月20日(金) 14:00~16:00

場 所 学士会館 320号室

決議事項 第1号議案 理事の選任

第2号議案 監事の選任

## (2) 理事会

### ①第1回(定時)

日 時 2019年6月4日(火) 15:00~17:35

場 所 講道館新館2階「教室」

決議事項 第1号議案 平成30年度事業報告の承認  
第2号議案 第7期決算報告の承認  
第3号議案 評議員会に推薦する理事、監事候補者の承認  
第4号議案 評議員選定委員会に推薦する評議員候補者の承認  
第5号議案 強化システムに関する内規の改正  
第6号議案 アスリート委員会委員長及び副委員長の選任  
第7号議案 埼玉県内で発生した柔道事故に関する事故調査委員会の設置  
第8号議案 2019年度第1回評議員会(定時評議員会)の招集

### ②第2回(臨時)

日 時 2019年6月21日(金) 14:00~14:20

場 所 学士会館320号室

決議事項 第1号議案 会長(代表理事)の選定  
第2号議案 副会長、専務理事(業務執行理事)及び常務理事の選定  
第3号議案 常務理事会構成理事の選定  
第4号議案 顧問及び参与の委嘱  
第5号議案 内部通報制度に関する規程の改正  
第6号議案 従たる事務所の移転  
第7号議案 2019世界柔道選手権東京大会における競技役員等の手当  
第8号議案 その他  
(1)教育普及・MIND委員会委員長の選任

### ③第3回(定時)

日 時 2019年9月19日(木) 15:00~16:00

場 所 講道館新館2階「教室」

決議事項 第1号議案 2019年度修正予算の承認  
第2号議案 公認指導者賠償責任保険制度の変更

### ④第4回(臨時)

日 時 2019年12月10日(金) 14:00~16:00

場 所 講道館新館2階「教室」

決議事項 第1号議案 スポーツ団体ガバナンスコード対応に伴う規程等の改正および制定  
①定款細則の改正  
②理事会による評議員候補者推薦規程の廃止  
③専門委員会規程の改正  
④アスリート委員会規程の改正  
⑤女子柔道振興委員会運営内規の廃止  
⑥経営管理委員会規程の制定

- ⑦加盟団体規程の制定
- ⑧倫理・懲戒規程の改正
- ⑨強化システムに関する内規の改正
- ⑩公益通報者保護に関する規程の制定
- ⑪情報公開規程の制定
- ⑫リスク管理規程の制定
- ⑬反社会的勢力対応規程の制定

第2号議案 評議員会に推薦する理事候補者の承認

第3号議案 次期専門委員会委員長および副委員長の選任

第4号議案 全国少年柔道協議会中央委員会委員長および副委員長の選任

第5号議案 2019年度第2回評議員会（臨時）の招招集

⑤第5回（臨時）

日 時 2020年2月12日(水)16:00～17:00

場 所 講道館新館2階「教室」

決議事項 第1号議案 懲戒処分公表基準

第2号議案 会員懲戒処分

第3号議案 終身会員の取り扱い

⑥第6回（定時）※決議の省略による

決議があったものとみなされた日 2020年3月16日(月)

決議があったものとみなされた事項

第1号議案 2020年度事業計画

第2号議案 2020年度収支予算

### 3. 専門委員会活動報告

#### (1) 総務委員会

##### 【会議の開催】

1. 全体会議 4回 (5月15日、9月5日、11月28日、2月19日)
2. 財政部会 (予算ヒアリング) 2回 (2月12日、2月13日)
3. 登録部会 (登録実務説明会) 6回 (7月27日、10月5日、10月11日、10月19日、12月22日、1月25日)

##### 【活動報告】

#### 1. 企画部会関係事業

##### (1) 各規程類の見直し

スポーツ団体ガバナンスコード対応等のため、下記の規程等を整備し、理事会へ提案した。

①役員および評議員の報酬等ならびに費用弁償に関する規程の改正

②定款細則の改正

③専門委員会規程の改正

④アスリート委員会規程の改正

⑤経営管理委員会規程の制定

⑥加盟団体規程の制定

⑦倫理・懲戒規程の改正

⑧監事監査規程の制定

⑨公益通報者保護に関する規程の制定

⑩情報公開規程の制定

⑪リスク管理規程の制定

⑫反社会的勢力対応規程の制定

##### (2) 公認指導者賠償責任保険の見直し

現行の公認指導者賠償責任保険では、公務員は業務中の事故等には国家賠償法が適用されることから加入対象外としているが、昨今の指導環境の多様化から、業務以外での指導の機会が増えている。よって、公務員も同保険へ加入できるものとするを理事会へ提案し、承認された。

##### (3) 2019年度事業報告および2020年度事業計画の策定を行い、理事会に提案した。

#### 2. 財政部会関係事業

(1) 平成30年度事業報告書及び決算書を策定し、内閣府へ定期報告を行った。

(2) 2019年度予算執行状況について理事会等で報告を行った。

(3) 2019年度決算見込、2020年度事業計画書及び予算書を策定し、内閣府への提出を行った。予算書策定にあたっては国際委員会、指導者養成委員会、教育普及・MIND委員会(教育普及部会)とヒアリングを実施し、事業計画に基づく事業運営と適正な予算執行、経理処理に努めることを確認した。

#### 3. 登録部会関係事業



### (1) 登録状況の分析・推進

登録状況を区分別および男女比率にて比較・分析し、現状や傾向について理事会等で報告を行うとともに、対策について検討した。

2019年度は8,325団体、143,549名の個人登録があり、前年よりも243団体、5,752名減少した。指導者資格登録者は19,857名（前年19,540名）、審判員資格登録者は16,876名（前年17,067名）、形審査員資格登録者は331名（前年313名）であった。

全柔連公認資格の標準化に伴い、個人登録において「指導者」区分を廃止し、「一般・社会人」の区分での指導者資格登録が可能になった。これにより「役員等」区分での登録者が減少し、「一般・社会人」区分での登録者が増加した。また、学校部活動における学校顧問特例資格者の全柔連個人登録が必須となったため、「学校顧問特例資格」の登録者が増加した。（詳細は法人概況の「会員の状況」を参照）

なお、2018年度～2019年度の日本国における15歳人口の減少率0.2%に対し、全柔連登録会員の減少率は中学生5.96%、小学生3.25%と、いずれも自然人口の減少率を大きく上回る。高校生も含めた少年柔道人口の減少に歯止めを掛けることが引き続きの課題である。

### (2) 登録実務説明会の実施

各都道府県連盟・協会の登録担当者を対象とした登録実務説明会を計画どおり全国6か所において実施した。いずれの会場でもインターネット回線への接続環境を整え、参加者が参加者所有PCまたは全柔連で用意したタブレット等でオンライン登録システムを実際に操作しながら諸手続きと関連する制度・規程について説明を受けられる受講環境を整備した。これにより、各資格制度およびオンライン登録システムの利用方法の理解と運用状況の向上が図られた。

### (3) オンライン登録システムの改善

ヘルプデスクへの問い合わせや、登録実務説明会において寄せられた要望も参考にし、管理者側と利用者側の双方にとって利便性の高いシステムを目指して、機能の追加などの改善を行った。

## (2) 大会事業委員会

### 【会議の開催】

1. 全体会議 3回 (5月10日、10月25日、2月6日)
2. 委員長・副委員長会議 2回 (5月10日、2月6日)
3. 小委員会 1回 (9月25日)

### 【活動報告】

#### 1. 大会についての検討

全国小学生学年別大会について全国代表者会議の分科会でも取り上げ、都道府県へのアンケート結果をもとに検討した結果、事故防止の観点と運営の観点を考慮し、2020年度大会から6年生を3階級と増やし5年生は現行のとおりとした。

また、全日本選手権大会について都道府県へアンケートを実施し、参加資格等の検討を行った。

#### 2. 国際大会の運営

- ①日本ベテランズ国際大会 (5/18～19 福井県立武道館)
- ②2019年世界柔道選手権東京大会 (8/25～9/1 日本武道館)
- ③グランドスラム大阪 (11/22～24 丸善インテックアリーナ大阪)

大会事業委員が中心となって運営に当たり、スムーズな大会運営を行うことができた。特に9年ぶりに開催した世界選手権は、2020年東京オリンピックと同じ会場で開催し、テスト大会として係員も同じスタッフで行い、運営面の課題も明らかになった。

#### 3. 国内主催大会の運営

- ①全日本選抜柔道体重別選手権大会 (4/6～7 福岡国際センター)
- ②全日本カデ柔道体重別選手権大会 (4/14 東和薬品ラクタブドームサブアリーナ)
- ③皇后盃全日本女子柔道選手権大会 (4/21 横浜文化体育館)
- ④全日本柔道選手権大会 (4/29 日本武道館)
- ⑤全国少年柔道大会 (5/5 講道館)
- ⑥全日本少年少女武道錬成大会 (7/28 日本武道館)
- ⑦全国高等学校定時制通信制柔道大会 (8/4 講道館)
- ⑧全国高等学校柔道大会 (8/9～13 鹿児島アリーナ)
- ⑨全国小学生学年別柔道大会 (8/11 愛媛県武道館)
- ⑩全国中学校柔道大会 (8/17～20 兵庫県立武道館)
- ⑪全日本ジュニア柔道体重別選手権大会 (9/14～15 埼玉県立武道館)
- ⑫マルちゃん杯全日本少年柔道大会 (9/22 東京武道館)
- ⑬国民体育大会柔道競技 (10/5～7 たつのこアリーナ)
- ⑭全日本柔道形競技大会 (10/27 講道館)
- ⑮講道館杯全日本柔道体重別選手権大会 (11/2～3 千葉ポートアリーナ)

東京近郊の大会では、大会事業委員が中心となって運営に当たり、地方で開催される大会には、大会事業委員を派遣し、運営の指導及び補助を行い、大会運営基準の統一化をはかった。今年は柔道衣コントロールを厳密化、計量会場の事前確認など大会事業委員が立会い、選手間の公平性を保った。

また、関係者が参加しやすい大会を目指し、一部スポンサー企業の支援をいただき、下記の大会で託児室を設置した。

- ①全日本選抜柔道体重別選手権大会 三井住友海上火災保険協賛
- ②皇后盃全日本女子柔道選手権大会 了徳寺大学協賛
- ③全国高等学校柔道大会 協賛なし
- ④全国中学校柔道大会 協賛なし
- ⑤全日本ジュニア柔道体重別選手権大会 協賛なし
- ⑥講道館杯全日本柔道体重別選手権大会 コマツ協賛
- ⑦グランドスラム大阪 協賛なし

なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月に開催を予定していた全国高等学校柔道選手権大会、文武両道杯全国高校大会、近代柔道杯全国中学生大会を中止とした。

### (3) 広報委員会

#### 【会議の開催】

1. 全体会議 3回 (5月20日、9月17日、1月31日※広報マーケティング委員会)
2. 広報誌「まいんど」作製部会 2回 (5月20日、9月17日)
3. カレンダー部会 2回 (5月20日、9月17日)

#### 【活動報告】

##### 1. 広報誌「まいんど」作製

広報誌「まいんど」を年5回(4月、7月、10月、1月、3月)刊行した。発行部数は5号平均で44,780部であり、登録団体や関係各所への発送を行い全国へ柔道の魅力を伝えた。スポーツ報道と一線を画し、礼節や道徳面など、柔道ならではの良さを意識して誌面作製を行った。

##### 2. 2019年カレンダー作製

柔道競技の普及・振興を目的に昨年同様に卓上タイプのカレンダーを10,100部作成し、登録団体やスポンサーへ発送した。今回は「Judo for all」柔道を愛するすべての方々をテーマに、健常者や障がい者による大会、合宿、講習、研修の写真を表面に掲載し、裏面には、大会日程や柔道の豆知識を掲載し、柔道に触れる機会の増加を図った。

##### 3. データベース構築

トーナメント進捗情報提供システムの構築を行い、下記全柔連の主催大会にて運用を実施した。リアルタイムに近い試合結果を主に会場内関係者・観客・メディア向けに情報発信をした。

###### <運用実施大会>

- ・全日本選抜柔道体重別選手権大会
- ・全日本カデ柔道体重別選手権大会
- ・皇后盃全日本女子柔道選手権大会
- ・全日本柔道選手権大会
- ・全日本ジュニア柔道体重別選手権大会
- ・講道館杯全日本柔道選手権大会
- ・2019 グランドスラム大阪
- ・2019 世界柔道選手権東京大会

#### (4-1) 教育普及・MIND委員会 (教育普及部会)

##### 【会議の開催】

1. 部会 3回 (6月3日、11月20日、1月29日)
2. イベント事業ワーキング・グループ (WG) 3回 (7月1日、9月9日、11月1日)

##### 【活動報告】

1. 柔道教室の開催  
当初15か所で計画していたが、新型コロナウイルスの影響等により13か所での開催となった。
2. 視察  
①キッズ柔道：12/14 船橋市飯山満  
②その他大会講習会：6/21 トヨタID (知的障がい者) 柔道体験会、7/27 トヨタID柔道研究会  
今年度の視察状況を踏まえ、次年度は他競技の視察を含め実施する。
3. 派遣講師研修会の実施  
①大阪 12月22日 講道館大阪国際柔道センター  
3月に予定していた東京開催は、新型コロナウイルスの影響により延期とした。
4. 海外柔道教育現場の実態調査  
クロアチア視察：12月9日～15日  
報告書を作成し、まいんどへ掲載した。
5. 大会イベントの実施  
①全日本選抜体重別選手権大会：4月6日、7日  
記念撮影ブース、サイン会(選手2名)、IPPON PROJECT を行った。  
②国民体育大会柔道競技 (茨城、10月4日～7日)  
記念撮影ブース、畳上イベント、握手会(選手1名)を行った。  
③グランドスラム大阪 (11月22日～24日)  
記念撮影ブース、トークショー(選手2名)を行った。
6. キッズ柔道支援  
日本女子柔道倶楽部(JWJC)にて、横須賀・女川町・船橋市の3教室の支援を行った。

#### (4-2) 教育普及・MIND委員会 (柔道MINDプロジェクト部会)

##### 【会議の開催】

1. 部会 3回 (5月24日、12月4日、1月31日)
2. リーフレット作成WG 3回 (8月1日、9月27日、2月27日)
3. その他  
①8月6日 普及振興推進事業初心者向け資料作成の打合せ (鎌塚)  
②8月24日 国際柔道連盟 (IJF) ジェンダーエクイティカンファレンスへの参加 (廣川)

##### 【活動報告】

1. 大会視察

委員が関わっていない大会を中心に視察し、柔道 MIND に係る問題点、課題を見出し、本部会の次年度各事業に反映させる

- ①4/22 皇后杯 (野瀬)
- ②5/5 全国少年大会 (野瀬)
- ③5/17-19 日本ベテランズ国際 (野瀬・鎌塚)
- ④6/29-30 第 2 回 I D 柔道安全指導研究会 (山崎・曾我部)
- ⑤8/17-19 全国中学校大会 (曾我部・廣川)
- ⑥10/5 茨城国体 (鎌塚)
- ⑦12/8 全国 I D 大会 (鎌塚)
- ⑧12/20 派遣講師研修会・大阪 (鎌塚)
- ⑨12/25 サニックス旗 (鎌塚・曾我部)
- ⑩3/8 自他共栄カップ (表彰のみ実施)

## 2. リーフレット作成及び 2018 年度に作成したポスターの配布、周知徹底

- ・リーフレット作成のため、MIND の説明、解説について協議を行い、デザイン案を作成した
- ・WG により作成したデザイン案をデザイナーに提示し依頼した。デザイン完成予定 (R2.5 月末)

## (4-3) 教育普及・MIND 委員会 (形部会)

### 【会議の開催】

1. 部会 2 回 (5 月 12 日、10 月 27 日)
2. 小部会 メール会議を実施

### 【活動報告】

#### 1. 全日本形地区予選視察及び有望組発掘

東京・関東・東海・北信越の 4 地区で実施。

公認形審査員資格を所持している審査員が中心となり、地区予選で審査を行っていた。まだ有資格者が少ない地区もあるので積極的に資格取得を促し、全国である一定のレベルの審査が行えるようにしていきたい。

また、今後世界形選手権大会にジュニア部門が設けられる予定のため、特にジュニア世代の有望組に注目し、合宿への参加を促していく。

#### 2. 形交流

講道館で行われた夏期講習会において、世界から集まる I J F およびアジア柔道連盟 (J U A) の形関係者と意見交換会を行った。

形の大会が頻繁に行われているヨーロッパの意見を参考に、アジアでの形の普及・発展に寄与していきたい。

#### 3. 世界形選手権大会派遣

9 月 4 日～5 日に韓国・忠州市で開催され、派遣した 3 組すべてが優勝した。今大会は世界マーシャルアーツ選手権の一部に組み込まれた関係で、大陸ごとに参加組数・形の制限があり 29 か国・地域から 83 組の参加となった。

2020 年度は 9 月にポーランドで開催される予定となっている。

#### 4. アジア形選手権大会派遣

10月13日にタイ・バンコクで開催され、派遣した3組すべてが優勝した。今大会は9か国・地域から24組の参加があった。

次回東南アジア競技大会主催国であるベトナムが特に力を入れて取り組んでいる様子が伺えた。

大会に先立って開催されたJUA形審査員試験では、日本から派遣した受験者3名とも合格した。

#### 5. 世界形代表組 個別分散合宿・代表組合宿

個別分散合宿 1泊2日 各形2回

個別分散合宿を2回行うことにより、1回目の合宿で見つかった課題を調整し、講師と再度確認することが出来、細部にまで指導が行き届いたと感じたため、来年度も、全体合宿は行わず、個別分散合宿を2回行う。

その代わりに、例年1回のみ行っている個別分散合宿を2回行うことにより、1度目の合宿で見つかった課題を調整し、講師と再度確認することが出来、細部にまで指導が行き届いたと感じたため、来年度も、全体合宿は行わず、個別分散合宿を2回行う。

#### 6. 全日本形強化合宿

味の素ナショナルトレーニングセンター（NTC） 2泊3日 1回（5月）

全国からの一般参加者を受入れ、強化組と一緒に指導・練習を行うことにより切磋琢磨する様子が伺えた。

新型コロナウイルスの影響で残念ながら2月の合宿は開催することが出来なかった。

#### 7. 形審査員試験・研修会

試験 3回（北海道・東京・大阪）

研修会 4回（北海道・東京・大阪・愛知）

北海道および大阪では、1日目に研修会、2日目に試験を行うことで一人でも多くの参加者のニーズに応えられるようにした。

2020年度も同様の形をとりたい。

#### 8. 香港形オープン大会派遣

JUA内での形の普及を目指し、第1回香港形オープン大会が開催された。東南アジア競技大会の直前で東南アジアからの参加者は少なかったが、複数の形にエントリーできるため、新たな種目にチャレンジするペアや今後本格的に形競技を目指すペアの参加があり、成功裏に行われた。

### （4-4）教育普及・MIIND委員会（視覚障がい者柔道連携部会）

#### 【会議の開催】

#### 1. 部会 2回（6月15日、1月30日）

遠方者のWEB会議実施を行うなど、情報共有が行えるようにする。

#### 【活動報告】

#### 1. 視覚障がい者柔道啓発活動一層の促進

- ① 全柔連加盟諸団体等との連携
- ② 全柔連指導者講習会、柔道教室等を通しての啓発活動
- ③ 各種大会での啓発活動及び選手発掘

- ④ 各種大会プログラムでの広報
- ⑤ 広報誌、HP等への情報掲載
- ・世界柔道選手権での視察を踏まえ、2020 東京パラリンピックに向けた情報交換を行うことができた。
- ・広報誌「まいんど」への掲載等行った。

○今後の課題

- ・各大会での広報活動方法を模索する必要がある。
- ・本連盟との連携や合同合宿を検討する。
- ・情報を掲載してもらえる媒体を拡充する。

2. 東京パラリンピックに向けた体制・組織強化支援

- ①映像含む情報分析メソッドの提供
- ②医科学分野での支援
- ③研修会等への講師派遣
- ④視覚障害者柔道審判員セミナーでの養成継続

東京パラリンピックに向けた強化支援・医療支援として医科学分野での支援（医療テープや医療機器）を行うことができた。

3. 東京パラリンピックに向けた選手強化支援

- ①本連盟選手強化合宿への帯同参加支援
- ②選手強化合宿への指導者、練習相手、補助者等の派遣
- ③フィジカルおよびメンタル強化練習メソッド導入支援
- ④選手強化合宿への経済的支援

4. 海外派遣支援

- ①国際視覚障害者スポーツ協会（IBSA）柔道グランプリ（アゼルバイジャン・5月）
- ②IBSA GAMES 柔道（アメリカ・6月）
- ③IBSA 柔道アジア・オセアニア選手権大会（カザフスタン・9月）
- ④IBSA 柔道グランプリ（ウズベキスタン・10月）

**（4-5）教育普及・MIND委員会（知的障がい者柔道振興部会）**

**【会議の開催】**

- 1. 部会長・副部会長・担当国会議 1回（8月8日）
- 2. 部会 4回（4月12日、7月20日、10月2日、1月31日）
- 3. 関連機関との会議 10回
  - ・5月29日 ID大会会場打合せ
  - ・6月14日 支援企業訪問
  - ・7月15日 ID柔道実技指導
  - ・7月17日 トヨタ自動車打合せ
  - ・8月19日 安全指導研究会打合せ
  - ・9月4日 安全指導研究会打合せ
  - ・9月13日 ID大会打合せ



- ・ 9月17日 ID大会打合せ
- ・ 3月11日 パラリンピックデモンストレーション会議
- ・ 3月21日 安全指導研究会打合せ

## 【活動報告】

### 1. 第2回全日本ID柔道選手権大会の開催

- (1) 9/16(日)～9/17(月・祝)の2日間、日本文化大学において全柔連主催大会として実施した。
- (2) 12府県から参加選手34名(男性28名、女性6名)、指導者約15名が参加。

### 2. 普及および啓発活動

#### (1) ID柔道安全指導研究会の開催(2回)

6月29日・30日に兵庫県、11月9日・10日に愛知県にて、ID柔道安全指導研究会を行うことができ、参加者も徐々に増え、50名を超える全国の指導者が研究会に参加した。

#### (2) 合同練習会の開催(1回)

7月27日トヨタ自動車との合同企画として、トヨタ自動車の社員とID柔道選手が柔道を通じた交流を行った。

#### (3) 今後の課題

企業を巻き込んだ支援体制づくりを強化していく。

### 3. 国際大会への参加及び視察

#### (1) 「Special Needs Judo Games 2019」(スウェーデン・5月30日～6月4日)

指導者3名・選手5名を派遣

#### (2) 2019 Gold Coast International Open Judo Championships (オーストラリア・10月4日～同月7日)へ濱名部会長を派遣

#### (3) スウェーデンで開催の指導者研修会(スウェーデン・2月23日～同月27日)へ濱名部会長、園部委員を派遣

### 4. 調査研究活動

他の競技団体との打ち合わせも積極的に行われ、(一社)日本知的障がい者スポーツ協会(ANISA)や海外ID柔道連盟など幅広く情報収集ができた。

## (5) 審判委員会

### 【会議の開催】

1. 審判委員会 3回 (5月16日、9月10日、2月14日)
2. 選考審査部会 4回 (5月21日、7月25日、10月9日、2月12日)
3. 委員長副委員長会議 3回 (5月21日、1月24～25日、2月15日)

#### (1) ガバナンスコード対応

公認審判員試験および選考要領の明確化や審判員に対するコンプライアンス教育等について検討し、新たに公認審判員資格制度運用要領を作成し、公認審判員規程改正案を協議した。

#### (2) 審判員選考

主要大会におけるSおよびAライセンス審判員の技能を審査し、全日本選手権、国体をはじめとする各大会の審判員選考を行なった。

### 【活動報告】

#### 1. Aライセンス審判員試験

全国各地で開催される地区ジュニア体重別選手権大会のうち下記5ヵ所で試験官を派遣し、試験を実施した。

5ヵ所に試験官を派遣し、2日間かけて試験を実施。125名が受験し、96名が合格した

- ① 6/29～6/30 福岡県武道館
- ② 7/6～7/7 埼玉県立武道館
- ③ 7/6～7/7 愛知県武道館
- ④ 7/6～7/7 兵庫県立武道館
- ⑤ 7/6～7/7 鳥取県立武道館

#### 2. 審判員研修会・講習会

審判員研修会及び講習会を以下のとおり実施し、審判員の技術向上に努めるとともに、2018年1月に改正されたIJF試合審判規定の周知を行った。

2020年1月のIJF審判員・コーチセミナーに審判委員会委員を派遣し、情報収集を行い、2月に開催した国内トップの審判員を集めた審判員強化研修会の中で解釈を統一するとともに、審判員に対するコンプライアンス教育をカリキュラムに導入し、その後の研修会・講習会での周知を図った。

- ① Aライセンス審判員研修会 (2/8 講道館大阪国際センター)
- ② 地方審判員講習会(四国) (4/20 香川県立武道館)
- ③ 地方審判員講習会(関東) (5/5 神奈川県立武道館)
- ④ 地方審判員講習会(北信越) (5/12 新潟市亀田総合体育館)
- ⑤ 地方審判員講習会(北海道) (5/12 千歳市北ガス文化ホール)
- ⑥ 地方審判員講習会(東北) (5/26 青森県総合社会教育センター)
- ⑦ 地方審判員講習会(東海) (9/8 静岡市北部体育館)
- ⑧ 地方審判員講習会(九州) (2/22 沖縄県立武道館)
- ⑨ 大会前日審判員講習会 (8/8 鹿児島アリーナ)
- ⑩ 大会前日審判員講習会 (8/10 愛媛県武道館)
- ⑪ 大会前日審判員講習会 (8/17 兵庫県立武道館)

- ⑫ 大会前日審判員講習会 (10/4 龍ヶ崎市文化会館)
- ⑬ Aライセンス審判員試験前日講習会 (6/29 福岡工業大学)
- ⑭ Aライセンス審判員試験前日講習会 (7/6 埼玉県スポーツ総合センター)
- ⑮ Aライセンス審判員試験前日講習会 (7/6 愛知県武道館)
- ⑯ Aライセンス審判員試験前日講習会 (7/6 兵庫県立武道館)
- ⑰ Aライセンス審判員試験前日講習会 (7/6 鳥取県立武道館)
- ⑱ 審判員強化研修会 (2/15 講道館)

### 3. 審判育成事業

各都道府県主催で行われる「審判講習会」講師を人選し派遣を行っており、今年度は6か所に講師の旅費補助を行った。

次年度は、地方単位での講習会事業ではなく、都道府県単位で審判委員会が派遣した講師による講習会に変更し、公認審判員の更新講習会とする。

- ① 大分県主催審判員講習会 (4/14 大分県立総合体育館)
- ② 山形県主催審判員講習会 (4/21 山形市総合スポーツセンター)
- ③ 熊本県主催審判員講習会 (5/6 熊本武道館)
- ④ 佐賀県主催審判員講習会 (5/11 佐賀県総合体育館)
- ⑤ 長野県主催審判員講習会 (5/19 佐久大学)
- ⑥ 秋田県主催審判員講習会 (7/28 秋田大学)

### 4. 審判教材作成

最新の審判規定やIJF審判・コーチセミナーでの内容をもとに、審判員にわかりやすい教材を作成した。

2020年1月にIJF審判員・コーチセミナーが実施され、審判委員会委員を派遣し、IJFが発信した情報を精査し、国内大会における適用方法の検討や和訳、解説資料の配布、HPでの公開等、迅速に対応した。

### 5. 国際審判員養成

#### (1) 国際大会派遣

下記の大会に審判員を派遣し、国際大会で活躍できる審判員の養成に努めた。

今後も若手育成のため、計画的に審判員を派遣していく。

(指名審判員)

- ① グランプリ・アンタルヤ 天野安喜子 (4/5～4/7 トルコ)
- ② アジア・パシフィック選手権 天野安喜子 (4/20～4/22 U A E)
- ③ グランドスラム・バクー 天野安喜子 (5/10～5/12 アゼルバイジャン)
- ④ グランプリ・バクー 天野安喜子 (5/13～5/14 アゼルバイジャン)
- ⑤ グランプリ・フフホト 天野安喜子 (5/24～5/26 中国)
- ⑥ グランプリ・モントリオール 天野安喜子 (7/5～7/7 カナダ)
- ⑦ グランプリ・ブダペスト 天野安喜子 (7/12～7/14 ハンガリー)
- ⑧ I B S Aヨーロッパ選手権 平野弘幸 (7/26～7/28 イタリア)
- ⑨ 世界選手権 天野安喜子 (8/25～9/1 日本)
- ⑩ グランプリ・タシケント 天野安喜子 平野弘幸 (9/20～9/24 ウズベキスタン)

- ⑪ グランドスラム・ブラジリア 天野安喜子 (10/6～10/8 ブラジル)
- ⑫ グランドスラム・アブダビ 天野安喜子 (10/25～10/27 U A E)
- ⑬ オセアニアオープン・パース 天野安喜子 (11/3～11/4 オーストラリア)
- ⑭ グランドスラム・大阪 天野安喜子 (11/22～11/24 日本)
- ⑮ ワールドマスターズ・青島 天野安喜子 (12/13～12/15 中国)
- ⑯ グランドスラム・パリ 天野安喜子 (2/8～2/9 フランス)
- ⑰ グランドスラム・デュッセルドルフ 天野安喜子 (2/21～2/23 ドイツ)

(単独審判員)

- ① J U A ジュニア・カデカップ・香港 坂本道人 (7/13～7/14 香港)
- ② アジアオープン・タイペイ 近藤克幸 (8/3～8/4 台湾)
- ③ ヨーロッパオープン・ソフィア 工藤文 (2/1～2/2 ブルガリア)

(帯同審判員)

- ① ポーランドカデ国際 小志田憲一 (5/18～5/19 ポーランド)
- ② スペインジュニア国際 樽谷哲子 (5/18～5/19 スペイン)
- ③ オーストリアジュニア国際 内村直也 (6/1～6/2 オーストリア)
- ④ アジアジュニア・カデ選手権 濱岡睦月 (7/27～7/30 台湾)
- ⑤ ドイツジュニア国際 中橋政彦 (7/27～7/28 ドイツ)
- ⑥ ヨーロッパオープン・オディヴェーラス 瀬尾麻世 (2/1～2/2 ポルトガル)
- ⑦ ベルギー国際 松本勇治 (2/1～2/2 ベルギー)
- ⑧ ヨーロッパオープン・オーヴァーバルト 眞喜志慶治 (2/15～2/16 オーストリア)
- ⑨ ヨーロッパオープン・ブラチスラバ 松田基子 (2/15 スロバキア)

※新型コロナウイルス感染症拡大のため、3月に予定していたヨーロッパジュニア・コインブ

ラ、

ブレーメン国際大会、チューリッゲン国際大会の3大会は派遣中止

## (2) I J F 審判員試験派遣

また、インターナショナル審判員試験に1名、コンチネンタル審判員試験に2名を派遣し、全員が合格した。

(インターナショナル審判員試験)

- ① パンナムオープン・サントドミンゴ 武田淳子 (9/7～8 ドミニカ)

(コンチネンタル審判員試験)

- ① タイ国際柔道大会 鈴木貴士 竹澤稔裕 (6/15～16 タイ)

## (3) I J F セミナー派遣

- ① I J F アカデミー 天野安喜子 (4/3～4/4 トルコ)
- ② I J F 審判員・コーチセミナー 天野安喜子 山本良 (1/11～1/12 カタール)

## 6. 審判委員派遣

下記大会へ審判委員を派遣し、ケアシステムを用いて試合の円滑な運営に努めた。

今年から誤審防止のため、審判委員を派遣していない大会についても、審判委員会が選考して派遣した審判員が審判委員を担った。

- ① 全日本選抜柔道体重別選手権大会 (4/6～4/7 福岡国際センター)

- ② 全日本カデ柔道体重別選手権大会（4/14 東和薬品ラクタブドームサブアリーナ）
- ③ 皇后盃全日本女子柔道選手権大会（4/21 横浜文化体育館）
- ④ 全日本柔道選手権大会（4/29 日本武道館）
- ⑤ 全日本ジュニア柔道体重別選手権大会（9/14～9/15 埼玉県立武道館）
- ⑥ 国民体育大会柔道競技（10/5～10/7 たつのこアリーナ）
- ⑦ 講道館杯全日本柔道体重別選手権大会（11/2～11/3 千葉ポートアリーナ）

#### 7. 審判員審査

下記大会へ選考審査部会員を派遣し、国内大会の審判員選考をはじめ、国際大会派遣審判員、Sライセンス審判員等の選考のための審判員技量の審査を行った。

2年間の審判技能を総合的に審査し、2020・2021年度公認Sライセンス審判員31名を選考した。

- ① 全日本選抜柔道体重別選手権大会（4/6～4/7 福岡国際センター）
- ② 全日本カデ柔道体重別選手権大会（4/14 東和薬品ラクタブドームサブアリーナ）
- ③ 皇后盃全日本女子柔道選手権大会（4/21 横浜文化体育館）
- ④ 全日本柔道選手権大会（4/29 日本武道館）
- ⑤ 全日本ジュニア柔道体重別選手権大会（9/14～9/15 埼玉県立武道館）
- ⑥ 国民体育大会柔道競技（10/5～10/7 たつのこアリーナ）
- ⑦ 講道館杯全日本柔道体重別選手権大会（11/2～11/3 千葉ポートアリーナ）

## (6) 強化委員会

### 【会議の開催】

1. 強化委員会 男子7回、女子8回〔4月7日(第1回男女)、4月21日(第2回女子)、4月29日(第2回男子)、8月7日(第3回男女)、9月14、15日(第4回男女)、9月26日(女子臨時)、11月3日(第5回男女)、11月24日(第6回男女)、2月27日(第7回男女)〕
2. 日本オリンピック委員会(JOC) ナショナルコーチアカデミー受講(通年 3名)

### 【活動報告】

#### 1. 強化委員会

- (1) 4月に行った3回の会議では主に世界選手権大会代表選考を協議した。
- (2) 8月第3回では主に監督より、世界選手権大会代表選手のコンディション報告をした。
- (3) 9月の第4回では主に世界ジュニア選手権代表、ジュニア強化選手の選考を協議した。
- (4) 11月の第5回では主にGS大阪代表、シニア強化選手の選考を協議した。
- (5) 11月の第6回では主に次年度の全日本選抜体重別選手権出場者、冬季欧州大会代表選考を協議した。また、強化システムに関する内規に基づき、世界選手権とGS大阪を共に優勝した素根輝選手を東京オリンピック代表に内定した。
- (6) 2月の第7回では強化システムに関する内規に基づき、12月以降の国際大会結果により、12名を東京オリンピック代表に内定した。また、次年度の事業計画、強化戦略プランの協議、監督より冬季欧州大会の総括を行った。
- (7) JOCコーチアカデミーには専任コーチ等3名が参加した。

#### 2. 国内大会視察、コーチ会議

- 4月6、7日(男女コーチ会議) 福岡国際センター 22名
- 4月13、14日(男女コーチ会議、全日本カデ視察) ラクタブドームサブアリーナ 15名
- 4月20、21日(女子コーチ会議) 横浜文化体育館 9名
- 4月29日(男子コーチ会議) 日本武道館 11名
- 6月8～9日(全日本実業団体視察) 高崎アリーナ 2名
- 7月22～24日(金鷲旗大会視察) マリンメッセ福岡 4名
- 8月9～13日(インターハイ視察) 鹿児島アリーナ 4名
- 8月17～20日(全中大会視察) 兵庫県立武道館 2名
- 8月11日(全国小学生学年別視察) 愛媛県立武道館 1名
- 9月14、15日(男女コーチ会議) 埼玉県立武道館 17名
- 11月2、3日(男女コーチ会議) 千葉ポートアリーナ 11名
- 11月22～24日(男女コーチ会議) 丸善インテックアリーナ 22名
- 2月27日(男女コーチ会議) 講道館 23名

- (1) 各コーチ会議では強化委員会に諮るための選手選考や素案を協議、作成し、その後の強化委員会に対する説明等がスムーズに行うことができた。
- (2) 国内大会を視察することで、監督・コーチが選手の実情を把握することができ、強化選手選考がスムーズにでき、また、強化委員会会議時にも各選手の説明も行うことができた。

(3) 11月のコーチ会議では次年度の事業計画や予算案の検討を行った。

### 3. 国際総合競技大会（JOC派遣大会）への派遣

第30回ユニバーシアード競技大会（2019/ナポリ）

今大会は変則階級で実施され、個人（12階級）、団体（男女別）あわせて金7銀3銅1合計11個のメダルを獲得した。

とくに女子は個人戦で全員が金メダルを獲得、団体戦も優勝し、活躍が目立った大会であった。

### 4. 科学研究事業

#### (1) 体力測定

8月（全中出場者）11月（男子強化CD）12月（男子強化AB）1月（女子強化AB）2月（女子強化D）通年（小学生）

体力測定を強化選手（合宿中）、全中大会出場選手（全中大会中）、小学生（競技者育成事業内）に実施、それぞれフィードバックした。

強化選手の測定結果は選手、サポートスタッフ、所属にフィードバックし、これらの情報を活用し、サポートスタッフが強化選手に対する栄養管理やトレーニング等に役立てた。

全中大会出場選手の測定結果は、所属の中学校や関係者に冊子にして送付した。

競技者育成事業に参加した小学生の測定結果は、合宿中に本人および指導者にフィードバックした。

また、これらのデータは今後も蓄積し、将来的には有望選手発掘のための根拠となる指標のひとつとして活用できるよう分析を進めることとしている。

#### (2) 試合撮影および編集作業

試合撮影および編集作業を日本スポーツ振興センター（JSC）ハイパフォーマンスサポートスタッフの協力のもと、主要IJF大会で行った。

#### (3) 映像・情報分析

上記で撮影、編集した映像は映像分析システムに取り込み、ポイントや技の種類、精度、組み手の分類、時間帯別の得失点、罰則などの情報、強豪選手や審判員の特徴・傾向などの情報分析を行い、データベース化している。これらのデータは選手・コーチへ即時フィードバックしたほか、対策ビデオ作成、映像配信などにより随時情報提供した。

#### (4) 研究成果報告書（冊子）作成

これまでの調査、研究内容を「柔道科学研究」にまとめ、冊子を作成し、強化委員会をはじめとする関係者に配布すると共にHPにも公開した。全中大会での体力測定結果を「全中体力測定報告書」にまとめ、参加者へのフィードバックの他、これまでのデータと共に蓄積した。

#### (5) 柔道競技の運動強度定量化プロジェクト

昨年度に引き続き、様々な稽古中の選手の心拍数を計時追跡し、柔道競技の運動強度定量化のためのデータを収集した。来年度も引き続きデータを収集すると共に、柔道の運動強度特性に基づくトレーニング法の開発につなげていく。

#### (6) 情報データベースの改善

#### (7) 柔道の形の動作分析とその映像化

7種の形を撮影、動作分析することにより、柔道の投技などの動作の本質的理解につなげる。

また、科学的なアプローチを映像化し、配信することで柔道のポジティブなイメージを広報す

る。分析結果は最終的に競技力向上に活用するための基データとした。

(8) メダルポテンシャル要因の抽出

メダルポテンシャル要因を抽出するために昨年度実施したトップアスリートに対するアンケートの結果を調査し、分析、要因の抽出をするためのシステムを開発した。今後、ここから得られた結果を基に、これからのタレント発掘の指標とすべく要因や条件をまとめていく。

5. 国際大会派遣、国際大会視察（JOC選手強化NF事業）

男子 シニア 18 件、ジュニア 10 件 計 28 件

女子 シニア 18 件、ジュニア 9 件 計 27 件

(1) 8月に東京で9年ぶりに開催された世界選手権大会では団体戦を含め、金メダル5個を獲得した。

(2) 10月にモロッコで開催された世界ジュニア選手権では団体戦を含め、金メダル7個を獲得し、次世代の選手育成も概ね順調であることが確認された。

(3) 国際大会派遣の成績は以下のとおり。

①アジア・パシフィック選手権 金5銀1銅4他2（団体戦含む）

②グランドスラム・バクー 金2銀2銅1他3

③グランプリ・フフホト 金3銀2銅1他2

④東アジア選手権 金1銀1銅1他0

⑤グランプリ・モントリオール 金7銀1銅1他2

⑥グランプリ・ブダペスト 金5銀3銅0他3

⑦グランプリ・ザグレブ 金4銀4銅0他3

⑧世界選手権 金5銀6銅5他2（団体戦含む）

⑨グランプリ・タシケント 金0銀2銅1他0

⑩グランドスラム・ブラジリア 金2銀0銅2他1

⑪ワールドマスターズ 金5銀2銅5他7

⑫グランプリ・テルアビブ 金2銀0銅2他5

⑬ヨーロッパオープン・オディベラス 金2銀2銅3他0

⑭グランドスラム・パリ 金3銀5銅5他6

⑮ヨーロッパオープン・ブラチスラバ 金3銀2銅1他0

⑯ヨーロッパオープン・オーバーヴァルト 金3銀1銅2他2

⑰グランドスラム・デュッセルドルフ 金8銀1銅1他1

⑱スペインジュニア国際大会 金3銀1銅0他0

⑲ポーランドカデ国際大会 金4銀1銅3他3

⑳オーストリアジュニア国際大会 金2銀2銅5他3

㉑ドイツジュニア国際大会 金3銀0銅4他0

㉒アジアジュニア選手権 金6銀1銅3他0

㉓世界カデ選手権 金5銀3銅4他3（団体戦含む）

㉔世界ジュニア選手権 金7銀2銅3他7（団体戦含む）

㉕ベルギー国際大会（20歳以下） 金6銀0銅0他0

㉖ベルギー国際大会（オープン） 金4銀2銅3他1



※グランドスラム・エカテリンブルグ 派遣中止

※ヨーロッパジュニア・コインブラ 派遣中止

※ブレーメン国際大会 派遣中止

※チューリンゲン国際大会 派遣中止

#### 6. 海外合宿（JOC選手強化NF事業）

男子 シニア3件、ジュニア3件 計6件（個別分散を含む）

女子 シニア1件、ジュニア3件 計4件

※大会に伴って行われる合宿を含む

(1) 前半は世界選手権に向け、代表補欠を中心に海外合宿に派遣し、強豪選手の動向把握を  
と共に様々なタイプの外国人選手と接することで対策をすることができた。

(2) ジュニアにおいては大会後の合宿に参加することで試合での課題や反省点の改善に役立  
た。

(3) 合宿地、人数は以下のとおり。

①アリカンテ（スペイン）男子14女子23計37名

②ハワイ（アメリカ）男子25名

③日韓交流合宿（ソウル）男子26名

④個別分散合宿（オーストリア）男子2名

⑤オーストリアジュニア国際合宿（ライプニッツ）男子9、女子9計18名

⑥ドイツジュニア国際合宿（ベルリン）男子11名

⑦ミッターヅル（オーストリア）女子11名

⑧パリ（フランス）女子8名

#### 7. 国内強化合宿（JOC選手強化NF事業）

男子 シニア9件、ジュニア7件 計16件（個別分散を含む）

女子 シニア7件、ジュニア4件 計11件（個別分散を含む）

ジュニアブロック合宿 5件（北海道、群馬、岐阜、岡山、福岡）

小学生合宿 2件

(1) シニアにおいては、9月までは世界選手権に向けた代表、補欠選手を中心とした強化および調  
整合宿を実施した。10月以降はGS大阪、ワールドマスターズ、冬季欧州大会に向けた合宿を  
実施した。

(2) ジュニアにおいては10月の世界ジュニア選手権を目標に国内合宿を実施、11月以降は外国人  
チームとの合同練習や強化選手としての心構えなどの講習を行うなど、教育面も重視した合宿  
を実施した。

(3) 国内で外国人選手との練習機会を創出するため、11月に国際合宿を実施した。

(4) 合宿地、人数は以下のとおり。

（男子シニア）

①第1回男子（東海大学） 19名

②第2回男子（NTC） 31名

③第3回男子（NTC他） 25名

④第4回男子（延岡市） 36名

- ⑤第5回男子（NTC） 23名
- ⑥第6回男子（大阪市） 28名
- ⑦第7回男子（尼崎市） 12名
- ⑧第8回男子（NTC） 84名
- ⑨男子個別分散合宿 延134名  
（男子ジュニア）
- ①第1回男子ジュニア（国士館高校） 13名
- ②第2回男子ジュニア（NTC） 19名
- ③第3回男子ジュニア（国士館大学） 14名
- ④第4回男子ジュニア（NTC） 82名
- ⑤第5回男子ジュニア（大阪市、尼崎市） 25名
- ⑥第6回男子ジュニア（NTC） 41名
- ⑦第7回男子ジュニア（NTC） 37名

（女子シニア）

- ①第1回女子（NTC） 41名
- ②第2回女子（NTC、自衛隊体育学校） 51名
- ③第3回女子（旭川市） 32名
- ④第4回女子（NTC） 45名
- ⑤第5回女子（尼崎市） 41名
- ⑥第6回女子（NTC他） 93名
- ⑦女子個別分散合宿 延172名

（女子ジュニア）

- ①第1回女子ジュニア（NTC） 10名
- ②第2回女子ジュニア（福岡市） 39名
- ③第3回女子ジュニア（大阪市、尼崎市） 46名
- ④第4回女子ジュニア（NTC） 54名

（その他）

- ①ジュニアブロック合宿 北海道75名/群馬125名/岐阜116名/岡山96名/福岡90名
- ②小学生強化教育合宿（講道館・NTC） 40名
- ③全日本競技者育成合宿（講道館） 99名

#### 8. 全国少年柔道競技者育成事業（JSCスポーツ振興くじ助成事業）

- (1) 将来有望な選手の発掘および育成を目的とし、一貫指導システムとして強化選手制度につなげるべく、全国10地区において小中学生を対象に合宿を実施した。
- (2) 少年競技者育成プログラムに基づき、全国10地区において合宿を実施し、競技力向上だけでなく、教育的な内容も組み込み、人間力や協調性を身につけられるようなカリキュラムを組んだ。
- (3) 各合宿は以下のとおり。
  - ①北海道（北海道立総合体育センター/小学生）1/11～1/13 75名
  - ②北海道（北海道立総合体育センター/中学生）11/2～11/4 68名
  - ③東北（青森県柏総合体育センター）9/14～9/16 124名

- ④関東（埼玉県立武道館）7/27～7/29 112名
- ⑤東京（講道館）
  - 小学生練習会3回4/20、6/1、7/6 延251名
  - 中学男子練習会2回11/24、12/8 延74名
  - 中学女子練習会3回10/1、11/4、11/24 延116名
- ⑥北信越（福井県立武道館）9/14～9/16 119名
- ⑦東海（愛知県武道館/小学生）7/13～7/15 132名
- ⑧東海（豊田市武道館/中学生）1/11～1/13 128名
- ⑨近畿（滋賀県立武道館）11/2～11/4 120名
- ⑩中国（鳥取県立武道館）7/27～7/29 97名
- ⑪四国（香川県立武道館）11/16～11/17 76名
- ⑫九州（久留米アリーナ/小学生）225名
- ⑬九州（久留米アリーナ/中学生）155名

9. 有望アスリート海外強化支援委託事業（JSC委託事業）

2016年にJSCよりターゲットアスリートに認定された阿部一二三選手および芳田司選手のための強化事業

- (1) 阿部選手、芳田選手共に今年度は世界選手権の優勝を逃し、最短でのオリンピック代表内定には至らなかったが、芳田選手については、その後の成績が評価され、2月の強化委員会で満場一致でオリンピック代表に内定した。一方の阿部選手は海外選手には負けていないが、丸山選手にのみ敗戦することで国内での代表争いが今年度中には決着がつかなかった。
- (2) 今年度は予定していた海外合宿の直前にケガがあり、芳田選手は全ての海外事業が中止となり、阿部選手も1回の海外事業となってしまった。
- (3) 今後は課題としてそれぞれが設定している内容を2020年度も継続して強化していくことで2021年に延期された東京大会での活躍が期待できる。
- (4) 事業を以下のとおり実施した。

阿部一二三選手　GSデュッセルドルフ　優勝  
 芳田司選手　英会話教室、情報分析のためのシステム運用

## (7) 国際委員会

### 【会議の開催】

#### 1. 全体会議 2回 (6月3日、12月18日)

年2回の会議を行い、情報共有や今後の方針等について協議した。強化委員会の派遣しない大会についても、希望者がいた場合には強化委員会等関連する委員会と連携をとり派遣を実施した。今後、強化委員会が派遣しない大会への通知、ならびに内規の整備を行っていく。

### 【活動報告】

### 【活動報告】

#### 1. 国際柔道連盟 (IJF)・アジア柔道連盟 (JUA) 主催大会等への役員派遣

- (1) 主にグランプリ以上のIJFワールドツアー、メディカル会議ならびにJUAの公式大会へ、IJFもしくはJUAから大会運営にかかわる役員として指名を受けた役員の派遣を行った。IJF関係では世界ジュニア、グランドスラム、グランプリ等に15大会、JUA関係ではアジア選手権、アジアカデ・ジュニア選手権の2大会へ派遣した。
- (2) 派遣された役員がIJF大会やJUA大会の主に審判分野において、中心的な役割を果たすことで、日本のプレゼンスを高めると共に、審判規定などに付いて活発に議論、情報収集を行った。
- (3) 審判関係以外でもIJFメディカル委員の派遣も行った。長期的視野で見た時に、現在派遣している委員等の後任者について検討していく必要があり、関連委員会とも連携を取りながら準備を進めていく必要がある。

#### 2. 国際派遣事業

- (1) IJF理事交流を目的とした派遣を7回、アジア交流を目的とした派遣を5回、日露交流事業を2回、その他日本武道団をはじめとする指導者等の派遣を行った。
- (2) IJF理事派遣では、IJF主催大会であるグランドスラム・パリ等、JUA大会であるアジア選手権、その他日露ジュニア交流やIOC関連への派遣を行った。その多くにビゼールIJF会長やオベイドJUA会長も参加しており意見交換等を行った。
- (3) アジアで開催される国際大会にJUA審判理事の派遣を行ったほか、日露交流派遣等を行うなどアジア並びにロシアにおける交流の場を設けた。

#### 3. 受入事業

- (1) 海外連盟から日本での練習要請をうけて、高校や大学等での練習を斡旋するとともに、日本入国に査証が必要な国は招聘状の作成、郵送などの対応を行った。海外連盟から日本における練習希望は多くあり、受入先や宿泊先と調整を行いながら可能な限りの対応を行った。
- (2) グランドスラム大阪後に開催した国際合宿 (2019年11月25日~29日) には、計46カ国から379名 (男子選手201名、女子選手178名) が参加した。今年は初めて兵庫県で開催をしたが、参加コーチ、選手から概ね好評であった。
- (3) 一方で、海外選手の迷惑行為も散見されたので、今後は派遣国連盟への注意喚起システムを構築していく必要がある。

#### 4. 事業名：国際育成事業

春派遣4名 (2020年2月から3月にかけて実施) ブータン1名、インドネシア3名

- (1) 学生ボランティア海外派遣事業については、応募できる大学の対象を広げていくとの意見があり、今後具体的な手続きや選考基準を検討していく。
- (2) 2019年世界選手権やG S大阪、東京五輪に関してI J Fとの協議や連携強化のため国際大会へ職員の派遣を行った。

#### 5. 国際貢献事業

国際貢献活動で、畳や柔道衣を支援した国からは非常に感謝された。事業を展開するうえで、非特定営利活動法人JUDOs、外務省等とも連携を行い、より効率的な支援を行ってきた。

柔道衣支援：フィジー（50着）、パラオ（10着）、ギニア（100着）、チュニジア（200着）、  
モンゴル（100着）、パキスタン（100着）、ベトナム（40着）

柔道畳支援：モンゴル（120枚）、パキスタン（120枚）、カンボジア（220枚）、ヨルダン（273枚）、  
エジプト（272枚）

## (8) 医科学委員会

### 【会議の開催】

1. 全体会議 2回 (4月28日、11月21日)

### 【活動報告】

#### 1. 医科学委員会

事故事例の検討や対応策の提案、医科学研究の進め方、柔道医科学研究会の開催、救護のあり方や体制整備、都道府県の協力委員の整備、強化選手の支援、アンチドーピング活動、I J F Medical Commissionの活動等について、審議と情報交換を行った。

#### 2. 柔道医科学研究と各種啓発活動の推進

- (1) テーマ別担当ごとの研究課題を計画通り実施し、医科学研究会や各種学会で報告した。やわらちゃん体操については出版社より啓発本を発行した。
- (2) 「柔道の安全指導 改訂第5版」の医学的な部分を執筆した。
- (3) 中学柔道選手を対象とした絞め技による意識消失の実態調査を実施した。
- (4) 絞め技と意識消失の実態把握のために、国際試合のビデオ解析を行った。

#### 3. 柔道医科学研究会の開催

- (1) 第7回 柔道医科学研究会を下記の通り開催した。

- 1) 日時：2019年7月27日(土) 14:00-18:00

- 2) 会場：講道館2F教室・第4会議室

- 3) 会長：宮崎誠司

- 4) 参加者：70名

- 5) 内容：27演題が発表され、活発に討論が行われた。

演題数(シンポジウム12演題、口演3演題、ポスター12演題)

- ①シンポジウム1：重大事故の現状と課題

- ②シンポジウム2：“絞め技”における現状と対応の課題

- ③シンポジウム3：試合救護の基本と課題

- (2) International Judo Medical Symposium 2019 を世界柔道選手権東京大会のタイミングに合わせて下記の通り開催した

- 1) 日時：2019年8月24日(土) 16:00-18:30

- 2) 会場：東京ドームホテル B2 オーロラ・イースト

- 3) 会長：永廣信治

- 4) 参加者：日本人23名、外国人20名；14カ国、計43名

- 5) 内容：演題数 14

Symposium 1: Current topics of Judo serious injuries

Symposium 2: Unconsciousness by “Shime-waza”, the mechanism and management

Miscellaneous Oral session

世界柔道選手権大会参加の関係者が開催前日の会議などに多く集まっており、参加しやすい状況だったためか、I J F Medical Commissionのメンバーに加え、各国からメディカルスタッフの参加が見られ、実のある情報交換と議論がなされた。今後の国際柔道連盟との連携強化のき

っかけになる研究会となった。

#### 4. 柔道大会の救護充実

救護講習会を東京、大阪二か所で開催し、全国の救護担当者に対し、最新の救護方法や知識を伝達する講習を行った。救護を行う大会中にスパインボード搬送演習、医薬品の点検・確認なども行った。

##### ◆救護講習会の概要：

- 1) 日時：(東京) 2019年7月28日(日) 10:00-12:30  
(大阪) 2019年9月7日(土) 15:30~19:00
- 2) 会場：(東京) 講道館、(大阪) CIVI 研修センター
- 3) 参加者：(東京) 86名、(大阪) 64名
- 4) 内容：外傷の初期対応講習が行われ、頸椎損傷が疑われる場合の対応や搬送の仕方については実習も行われた。

#### 5. アンチ・ドーピング活動

アンチ・ドーピングに関する知識の確認のために、ジュニア合宿、男女強化合宿、全日本カデ大会等で参加選手に対する啓発活動を実施した。

#### 6. 強化選手の医学的支援

- (1) 国際大会に医科学委員会のドクターが帯同し、現地状況の視察と共に、強化選手に対し健康管理や怪我への対応、治療などの各種支援を実施した。
- (2) 強化選手 104名に対する脳振盪ベースラインテストを実施した(2019年12月と2020年1月の2回に分けて選手全員に対して実施した。)

## (9) アスリート委員会

### 【会議の開催】

1. 全体会議 3 回（5月 20 日、9月 30 日、1月 28 日）
2. 委員長・副委員長会議 1 回（12月 17 日）

### 【活動報告】

1. 日本代表選手プロフィールカード作成

柔道競技への新規ファン層の獲得、既存ファン層の拡大を図り、柔道競技の普及・発展につなげることを目的に、2019年 8月 24 日から 9月 1 日に日本武道館で開催された 2019 世界柔道選手権東京大会に出場した個人、団体代表及び全日本男女監督（計 24 名分）を対象としてプロフィールカードを作成した。当該カードは本連盟主催のイベントや合宿等に会場に来て頂いた方と日本代表選手との交流ツールとして活用し、手に取った方たちから好評であった。今後も当該活動を継続し新規となるファンや全柔連登録者の増加につなげていきたい。

2. 台風 15 号、19 号被害に対する募金活動の実施

2019 年 10 月に発生した台風 15 号、19 号の被害に対する募金活動を 11 月 2 日（土）～3 日（日）講道館杯全日本体重別選手権大会（千葉ポートアリーナ）において、2019 世界柔道出場選手、全日本男女監督及びアスリート委員会にて実施した。多くの来場者から頂いた募金（約 35 万円）は甚大な被害を受けた地域に対して「令和元年台風被害復興支援プロジェクト」の原資として使用した。

<令和元年台風被害復興支援プロジェクト>

2019 世界柔道で使用したタイシヤン製の畳 540 畳（青 210+ 赤 330）を台風で甚大な被害を受けた地域の都道府県柔道連盟（協会）を通して、被災した道場に送付するプロジェクト。

3. グランドスラム大阪 2019 バックヤードツアー実施

2019 年 11 月 22 日（金）から 24 日（日）に開催されたグランドスラム大阪大会（丸善インテックアリーナ大阪）において、バックヤードツアーを柔道経験者、柔道未経験者の子供達、保護者へ見せることで柔道への新たな視点での興味、関心を持って頂くとともに、柔道競技の普及・振興につなげることをも目的に実施し、15 名（小学生 9 名、保護者 6 名）がツアーに参加した。ツアー後アンケートを実施したところ、多くの参加者から、「大会運営側の視点が見られて新鮮であり、勉強になった」「貴重な体験となった」「各国の代表選手を近くで見られて嬉しかった」との意見を頂き好評であった。今後も当該活動を継続して実施し、柔道競技の普及・振興につなげていきたい。



## (10) コンプライアンス委員会

### 【会議の開催】

1. 全体会議 4回 (5月21日、10月3日、11月8日、2月19日)

### 【活動報告】

#### 1. コンプライアンス委員会

委員会においては、ホットライン担当者に女性弁護士を加える。コンプライアンス講義の実施、講義内容の検討、懲戒処分等のマスコミへの公表基準、都道府県柔道連盟（協会）の懲戒規程の確認、全柔連倫理・懲戒規程の改正等を討論した。

#### 2. コンプライアンス講義の実施

(1) コンプライアンス委員会委員が都道府県柔道連盟（協会）で実施する講習会、小柔協等に赴き、指導者保護者、子供に講義を実施して、コンプライアンスの意識向上に努める。

(2) 本年度は、宮崎県 (5/12)、三重県 (6/23)、広島県 (6/30)、香川県 (7/21)、沖縄県 (8/31)、栃木県 (9/1)、神奈川県 (10/14)、茨城県 (11/3)、秋田県 (12/7)、東京都 (12/8)、和歌山県 (12/8) の11か所で実施した。

要望があった3月の山形県はコロナ感染拡大のため中止となった。

#### 3. 資料の作成、コンプライアンス事例の紹介

新たな資料作成要否を検討したが、昨年作成した資料が好評であったことから、委員会で新たな資料作成の必要はないと判断された。グッドコーチング60冊を購入し、都道府県柔道連盟（協会）コンプライアンス担当委員、コンプライアンス委員会委員に配布した。

#### 4. コンプライアンス調査

コンプライアンス事案に対して、調査を実施して処分4件を実施した。

## (11) 重大事故総合対策委員会

### 【会議の開催】

1. 全体会議 4回（9月10日、11月18日、1月20日、2月1日）
2. 安全指導冊子WG 2回（9月10日、11月18日）

### 【事業報告】

#### 1. 草の根の事故防止・安全指導の周知徹底

##### (1) 小・中・高校生の事故防止・安全指導に特化

第2回全国安全指導員連絡会（令和元年2月1日）で度初めの事故防止を啓発 安全指導の地域格差を無くす取り組みを推進

- ・小学生、中学生、高校生の指導者の安全指導の意識が向上
- ・指導者の事故防止、安全指導の意識が向上
- ・指導経験の浅い指導者のフォローが充実

##### (2) 年度初めの事故防止啓発強化期間の設定

①「柔道事故ゼロ運動」とのリンクにより、柔道界全体の取り組みとして定着した。

- ・事故が発生しやすい時期に事故防止の意識が高まる。

②啓発文書の発出

- ・柔道事故ゼロ運動（4月）・初心者事故防止（5月）
- ・熱中症予防対策（6月）・夏休み事故防止（7月）
- ・小学生の重大事故防止（11月）

③今後の課題

- ・全国安全指導連絡会と連携した安全指導の充実
- ・年度初めの事故防止啓発強化期間の継続と計画的な啓発文書の発出

##### (3) 効果

①小・中・高校生の事故防止・安全指導に特化した安全指導の周知ができた。

②重大事故の発生しやすい年度初めに事故防止啓発強化期間を設定して計画的に啓発文書を発出したことが効果的であった。

③小学生の死亡事故が発生して、小学生の活動指針を示したことで、小学生の指導や試合のあり方に一定の啓発効果があった。

#### 2. 第2回全国安全指導員連絡会の開催

(1) 全国安全指導員連絡会を2020年2月1日に実施。

- ・柔道の安全指導冊子第5版の配布と解説
- ・最新事故状況と安全指導の留意点の映像を使った講習実施
- ・被害者代表の講演を実施
- ・京都府、愛媛県の事例紹介
- ・テーマ別グループワーク、情報交換、全柔連への要望
- ・次年度の事故防止強化期間の安全指導の伝達、啓発の機会

(2) 全国安全指導連絡会を定例開催することで、安全指導、事故防止の地域格差を改善し、安全指導の情報が徹底されるように内容を充実させるための予算措置が必要である。

(3) 今後の課題

- ・全国安全指導員連絡会の継続的な定例開催と内容の充実
- ・安全指導、事故防止の地域格差の改善
- ・各県柔連からの事故防止・安全指導講習会の実施計画・報告の徹底
- ・全柔連が発信する安全指導の情報の徹底

3. 柔道の安全指導冊子第5版の作成と配布

(1) 柔道の安全指導冊子第5版を3万部作成し配布した。

- ・第2回全国安全指導員連絡会（2月1日）で配布・解説
- ・年度末に各都道府県柔連に送付

(2) 効果

重大事故の最新データを載せ、章立ての構成や項目を整理して見やすく、現場で活用しやすい装丁にした。予定通り全国安全指導員連絡会で配布・解説できた。今後、全国指導者の有効活用を期待している。

(3) 今後の課題

- ・第5版を使った医科学委員会との合同出前講習会の実施

4. 事故調査

(1) 小学生の重大事故調査及び事故防止の講習会実施

9月23日（福井県）委員長を派遣

(2) 今回は重大事故が発生した当該県柔連からの要請で事故調査と講習会を実施した。今後は、どのような重大事故に対して調査を行うかの規定を作成する必要がある。

(3) 今後の課題

- ・事故調査の対象となる事故や内容の詳細な規定を検討する。
- ・該当事故が発生した場合、迅速、適切に事故調査を実施する。

## (12) 女子柔道振興委員会

### 【会議の開催】

1. 全体会議 4回 (5月17日、9月4日、11月13日、1月29日)
2. 委員長、副委員長会議 2回 (9月19日、12月3日)

### 【活動報告】

#### 1. 女子柔道振興委員会

会議では2019年度の事業計画に基づき、以下内容を議論・協議し、各事業を事業計画通りに進めるとともに、各都道府県における女性役員の登用状況、女子柔道に関する委員会等の設置状況を調査し、評議員会・理事会で結果を公表し、女性役員登用や女性委員会の設置を促した。前年度と比較すると女性役員は5県で増加が見られ、また女子柔道に関する委員会は、新たに2県で設置された。

- ①女子柔道意見交換会の開催
- ②女子柔道キャリアアップセミナーの開催
- ③COMEBACK 女子柔道プロジェクトの開催
- ④各都道府県における女性役員の登用推進のための状況調査
- ⑤各都道府県における女子委員会等の設置に関する状況調査
- ⑥柔道における女性の活躍推進プランの策定
- ⑦次年度への課題抽出

#### 2. 女子柔道キャリアアップセミナー

- (1) 主に女子学生を対象に、有識者講演、指導者資格・審判員資格についての説明、先輩からのメッセージを伝える等、キャリアアップのためのセミナーを開催した。資格取得や現役引退後の柔道への関りについての啓蒙を目的とし、大学卒業後や競技引退後の柔道離れ抑止を目的とする。
- (2) セミナーは11月15日、石川県・松任総合運動公園体育館で開催し、翌日の湊谷杯柔道大会に参加する女子大学生、指導者、審判員ら関係者52名が参加した。4名の講師から柔道を通しての経験談、指導者資格、審判員資格等それぞれのテーマで講演・説明を行い、開催後は報告書を本連盟ホームページに掲載した。

#### 3. ホームページを利用した女子柔道に関する情報集約及び発信

- (1) 本連盟ホームページ内の女子柔道に関するページに、本委員会、また各都道府県における女性柔道に関する活動状況等を掲載する。女子柔道に関する各都道府県の活動状況の情報発信や、女性柔道に関する情報の集約を行うことで、女子柔道に関する普及・振興につなげることを目的とする。
- (2) ホームページを入口として、女子柔道意見交換会のWEB上での申し込み受付、COMEBACK 女子柔道プロジェクトの公募周知、また開催報告書の掲載、その他本委員会からの情報発信、都道府県担当者から寄せられる各地域での活動の様子を一元化しての情報発信をすることができた。

#### 4. COMEBACK 女子柔道プロジェクト

- (1) 様々な理由で柔道から離れた女子柔道経験者や初めて柔道に触れる女性をターゲットとした各都道府県が主催する各種イベント（柔道関連セミナー、健康づくりのための柔道エクササイズ

等)を公募し、優良企画には本委員会から助成金を出し支援する。イベントを通して女子柔道の活性化、女性登録数の増加(元柔道選手の再登録)、家族、親族、関係者の新規柔道愛好者の開拓につなげることを目的に実施した。

※女子柔道意見交換会(2020年2月29日開催予定)は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止とした。

### (13) 指導者養成委員会

#### 【会議の開催】

1. 部会全体会議 3回 (10月5日、1月21日、2月7日)
2. 指導者資格制度 (カリキュラム検討、コーチ交流を含む) に関する小会議  
3回 (4月22日、7月30日、11月23日)
3. 委員長・副委員長会議 1回 (3月10日)

#### 【活動報告】

1. B指導員養成講習会・モニタリングの実施
  - (1) B指導員養成講習会を全国39都道府県・40か所にて実施した。
  - (2) 上記のうち、2か所 (埼玉県、三重県) にてモニタリングを実施した。
  - (3) B指導員養成講習会5か所 (秋田県、沖縄県、宮崎県、北海道・神奈川県) へ講師を派遣した。
2. C指導員養成講習会・モニタリングの実施
  - (1) C指導員養成講習会を全国41都道府県・43か所にて実施した。
  - (2) 上記のうち、2か所 (徳島県、関西学連) にてモニタリングを実施した。
3. 更新講習会の開催  
全国47都道府県で実施し、2,877名が指導者資格の更新をした。
4. 全国指導者資格研修会
  - (1) 5月12～13日にNTCで開催し、全国から55名 (うち女性5名) が参加した。
  - (2) 各都道府県から講習会担当者、講師 (A指導員)、事務局長などが参加し、全柔連で行っている事業などの情報共有や、各種講習内容や指導方法について詳細な説明を行った。また、女性参加者5名が参加し、女子柔道振興方策に向けて、実りある研修会となった。
5. フランス柔道指導者研修会の視察
  - (1) 5月6日～7日に天理大学で行われたフランス柔道指導者研修会を視察した。
  - (2) 引き続きフランス式指導法についての情報収集を行うとともに、引率する連盟担当者と指導者養成制度のあり方について意見交換する機会を設けたい。
6. 海外視察
  - (1) I J FアカデミーLevel 2 (12/1～8) へ、木村委員長、小山副委員長の2名を派遣し講習会の調査および視察を行った。
  - (2) I J Fアカデミーの新システムへの移行の概要について情報提供を受け、また全柔連指導者養成制度の内容に関して紹介した。I J Fは全柔連のカリキュラムとの一致度の高さを評価し、単位の可能性について引き続き議論すべきとの認識で一致した。
7. 日本武道館との共催事業
  - (1) 日本武道館との共催で、以下の事業を実施した。
    - ① 中学校武道授業 (柔道) 事業に関する小会議
    - ② 令和元年度中学校武道授業 (柔道) 指導法研究事業 (6月14日～16日)
    - ③ 第10回全国中学校 (教科) 柔道指導者研修会 (10月25日～27日)
  - (2) 中学校柔道授業で柔道を専門としない教師が多く参加して、授業における安全指導などを学んだ。

8. 中央指導者資格審査委員会

メール会議を実施し、以下の審議を行った。

① A指導員資格の審査及び認定

② 都道府県柔道指導者資格審査委員の審査・認定

9. 大学生対象のC指導員養成講習会

東京地区と関西地区に分けて、以下の通り開催した。

① 東京地区（日本体育大学）（2019年）3月29日、2月1日 受講者数68名

② 関西地区（森ノ宮医療学園専門学校） 2月22日～23日 受講者数23名

10. A指導員養成講習会の開催（くじ助成事業）

(1) 東京会場（11月8日～10日、11月16日～17日）、福岡会場（11月29日～12月1日、2月15日～16日）の2か所で開催し、東京で25名、福岡で14名の計39名が合格した。

(2) アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れるなど講習方法を改善できたが、カリキュラム的にどうしても詰め込まざるを得ない部分があるので、カリキュラム改善と合わせてより効果的な学びの場になるように工夫していきたい。

11. スポーツ庁委託事業「武道等指導充実・資質向上支援事業」の実施

(1) 本連盟講師と授業協力者との協同による中学校授業支援を新潟県と大分県で実施した。

(2) 教員と授業協力者・外部部活動指導者が共に柔道指導力向上を目指すための支援事業（継続）を7都県（愛媛県・新潟県・東京都・島根県・鹿児島県・長崎県・徳島県）にて実施した。

(3) オランダ Centaal Instituut Opleiding Sportleider の柔道指導者を通じて、子どもの柔道指導者へのアンケートを実施し、回答についての分析を行った。

(4) H30年度「安全で楽しい柔道授業ガイド（DVD付）改訂版」の作成と各都道府県及び区町村教育委員会（政令指定都市）への無料配布を実施した。

以上

## 事業報告 附属明細書

2019 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。